

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 楽々)

事業所番号	0693000051		
法人名	株式会社 ライフネット		
事業所名	グループホーム ほなみ家		
所在地	山形県東田川郡庄内町余目字四ツ興野123		
自己評価作成日	令和4年 8月 3日	開設年月日	平成 22年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍により外出が制限されてしまう為、施設内でより楽しんで頂けるようレクリエーションの充実や月に3回のクラブ活動を実施し、好みのクラブに参加され生き生きと楽しまれている。月に1回以上は季節に応じた行事や誕生会があり、外出レク等で季節を感じ、気分転換して頂けるよう努めている。食事も行事食やパンバイキング等、目で見て楽しめる献立作りを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 4年 9月 7日	評価結果決定日	令和 4年 9月 26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関、スタッフルームに理念を掲示し、理念に基づいたケアを行い、きめ細やかなサービス提供に努めている。散歩中に地域の方との挨拶等もしっかりと行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以降、夏祭りも縮小し交流の機会が制限されているが、運営推進会議にて意見交換等を行っている。自治体にも施設の存在が浸透し、少しずつではあるが交流が持てるように努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターや認知症カフェなどで認知症に対する理解を得られるよう努めている。年1回開催の地域の文化祭に職員・利用者様共同で作品を制作し出品している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を行い、施設の行事や状況、また、地域の取り組みやコロナ状況・対策等の意見交換を行い、質問、意見、要望などをサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を取り合い、双方の実情の把握や相談を行い、協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束防止委員会を中心に、利用者様の生活を守るケアに努め、利用者様の日々の行動パターンを把握し、所在確認や見守りを強化する等、職員全体で工夫しながら身体拘束ゼロに取り組んでいる。研修で学び身体拘束となる具体的な行為などは理解できている。現在拘束はないが、点滴の際など切迫性がある場合は、ご家族様の同意を得て行う場合もある。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会があり、定期的にアンケートを実施し日頃の自分のケアを見直し、虐待防止や抑止につながっている。内部研修や外部研修に参加し、高齢者虐待の知識を身につけている。入浴は身体チェックをしている。			
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、復命書にて全員に回覧し理解を深めている。			
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所説明の際に不安や疑問について話し合いや説明を行い、理解を得ている。			
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を通して、ご家族様の意見や要望などは運営に反映させている。			
11	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ・ユニット会議にて議題に取り上げたり、必要に応じてその都度話し合いをしている。			
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を事前に申し出て、必要な時に休みが取れる環境にある。勤務体制や時間等も個人の事情に合わせて対応している。			
13	(7) ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修については必要に応じて個別に割り振ったり、法人内の研修は外部講師を招いて行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修等に参加して、他施設職員等と交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安に思っている事、要望等に耳を傾けながら、少しでも早く安心して過ごして頂けるよう、関係づくりに努めている。利用者様に寄り添い、まずは施設に慣れ、落ち着いて過ごして頂けるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っている事、不安に思っている事、要望等に耳を傾け、不安を解消できるようなサービスを提供し、要望には応じられるように努め、安心して頂けるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様、主治医や看護師、施設職員が連携し、情報共有した上で必要な支援を見極め、サービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食器拭きなど、利用者様一人ひとりの力に応じた作業を一緒に行うことで、生活を共にするもの同士の関係を築いている。個性や生活歴を大切に、残存機能や得意な事を活かし、また、出来る事はご自分でして頂き、出来ない所をサポートしながら支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便り、電話などで日々の様子や本人の思いを伝えている。本人とご家族様の絆を大切にしながら、関係がとぎれないよう共に本人を支えていく関係を築いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でも面会時間を短くし、感染対策を取りながら関係が継続されるよう支援している。ご家族様の送迎にて馴染みの美容院に行っている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や感情の変化、利用者様同士の関係を把握し、見極めている。人間関係が円滑になるよう職員が見守り、日々のレクリエーション等でも関わり合いが持てるように支援している。仲の良い方同士はユニットに関係なくお互いの居室へ遊びに行ったりしている。合わない方同士には職員が間に入り、お互いの精神面に配慮するよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族様から相談の連絡があり、その際は親身になり対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望や訴えがあった場合だけでなく、日々の関りの中、雰囲気佐仕草、表情等から思いや意向を汲み取り、利用者様本位の生活ができるよう、ケアの提供に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や環境、馴染みの暮らし方、サービスの経過等を、可能な限り本人から聞き取りを行い、ご家族様やケアマネージャーからも情報収集を行い、職員間で情報共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや一日の過ごし方を理解し、各チェック表や記録等で現状の把握に努めている。個々の状態に応じ一日に数回バイタル測定を行い、表情や言動などからも心身状況の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らせるために本人、ご家族様、必要な関係者と話し合ったり、思いや意向、不安等無いか伺い、それぞれの意見等を反映し現状に即した介護計画を作成している。また、毎日の申し送りや月に1回のユニット会議にて情報交換を行い、必要なケアについて話し合っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を個別の介護記録に記入し、状態変化や気づきなどは連絡ノートを活用し、職員間で情報を共有している。また、水分量、食事量、排泄、バイタル等も温度板を活用し変化がないか確認している。それらを実践の見直しや介護計画作成に活かしている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状の把握に努め、必要に応じて柔軟に対応できるよう努めている。防災訓練等に参加して頂いている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて歯科往診を行っている。内科医の往診は月に一度あり、医療機関への送迎、付き添い、医師への情報提供を随時行っている。特変時にはご家族様・主治医と連携し、専門医の受診ができるよう連携を図っている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との情報交換や相談は常時行われており、特変時は適切な対応ができるように支援している。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を含めた病院関係者と情報交換や相談等を行い、早期発見や治療を受けられるよう支援している。退院の際にも情報共有し、施設での生活に安心して戻れるよう支援し、退院後も適切なケアに努めている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人、ご家族様と話し合いを行い、施設で出来る事、出来ない事を十分に説明している。終末期にはご家族様、医療機関と連絡を取り合い、方針を共有し、可能な限り苦痛を和らげるよう主治医、看護師と協力し支援している。また、居室でも寂しさを感じないように何度も訪室し声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修に参加して実践力を身につけられるように努めている。急変時のマニュアルが常に目の届く所にあり、緊急時スムーズに対応できるようにしている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に迅速に適切な行動がとれるよう、年2回防災訓練を行っている。緊急連絡網での訓練も行い、緊急時に備えている。自治体の協力体制も築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や人格を尊重し、その方に合った適切な声掛けと対応を心掛けている。また、言葉遣いや態度にも不快な思いをさせないよう配慮している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、本人が決定できるよう意思表示しやすい環境や場面、雰囲気を作るよう心掛け、押し付けにならないよう気を付けている。訴えが少ない方には様子を観察し、声掛けを行って希望に添えるよう支援している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の思いを大切に、希望に添って支援している。一人ひとりのペースを理解・把握し、ゆっくりとくつろいで頂き、心地良い生活が送れるよう支援している。その時の状態に合わせて起床時間や就寝時間、入浴等対応している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、出張理容のサービスがあり、希望があれば散髪やパーマ、毛染めを行っている。好みの化粧品やクリームをご家族様から持参して頂いている。利用者様の好みやこだわりを尊重しながら、清潔感を心掛け、季節に応じた衣類等のアドバイスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のメニューを取り入れた献立作りを行い、毎月の行事食やパンバイキングを実施し、楽しんで生活ができるよう工夫している。給食委員会が中心となり、嗜好調査で好みのメニューも取り入れている。野菜の下ごしらえや盛り付け、食器拭き等の後片付けを一緒に行っている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、体調不良や食欲がない時は随時食事内容を変更したり、高カロリー食で補食し、水分が少ない方には水分補給ゼリーを提供している。バランスの良いメニューを提供し、個人の栄養状態や量を把握し、利用者様が楽しく安全に食事ができるよう支援している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、手の届かない利用者様には介助を行い、清潔保持を行っている。必要に応じて歯科医の往診を受け、口腔内の健康を維持している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗がないよう声掛けや誘導を行っている。その際、自尊心に配慮しながら声掛けを行い、排泄のサインを見逃さず、できるだけトイレで行えるよう下肢筋力低下防止にも努めている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分補給や体操、身体を使ったレクリエーションを行い、自然排便ができるよう支援している。状態に応じ、医師、看護師と相談し、下剤での排便コントロールも行っている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の体調を考慮し、週に2回入浴を行い、湯の温度や入浴にかかる時間を把握し、ゆっくり楽しんで頂けるよう支援している。立位がとれない方には機械浴で対応している。利用者様が入浴を楽しめるのはもちろんの事、個別でゆっくりと関わられる時間でもあるので大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労感があったり眠そうな時は声掛けを行い、休息できるように支援している。また、生活習慣やその時の状況に応じ、居室やソファでくつろげる環境を整えている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の用法や副作用について理解し、間違いなく服薬できるよう確認しやすいケースに入れたり、トリプルチェック、2名以上で確認し、飲み終えた薬袋のチェックを習慣づけている。薬の変更時には連絡ノート、申し送り等で周知を徹底している。禁止食等、一覧表を掲示して分かりやすくしている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じ、家事や活動の場で役割を持って頂き、感謝の気持ちを伝えている。新聞を読んだり、好きなテレビ番組を見たり、日々の習慣が継続できるよう支援している。カラオケや卓球など好きな事をレクリエーションに取り入れたり、散歩や外出する機会を設け気分転換や楽しみを持った生活ができるよう努めている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍に伴い、外に出掛ける事に制限があるが、施設周辺の散歩やウッドデッキでの日光浴、ドライブ等行っている。			
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じてお金を所持したり、使えるよう支援している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望やご家族様からの電話があれば、いつでもゆっくり話せるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやソファ、ベンチなど思い思いの過ごし方ができるつくりになっている。季節感にあった飾りや花で生活を彩り、壁面にも工夫した装飾を施している。装飾を作る際は利用者様も一緒に行っている。湿度や温度は適切に調整しており、光の刺激が強い時はカーテンをしたり、心地良く過ごせるよう工夫している。			
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席やソファ、居室など、利用者様の落ち着く好きな場所で各自思い思いに過ごしている。居室は全て個室で好きな時に一人になる事ができ、通路のベンチでも独りになる事ができる。気の合う方と一緒にテレビを見たり、談笑される空間があり、居室を行き来されている方もいる。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物や好きな物を置き、家族写真やレクリエーションで作成した作品を飾ったり、その方らしく安心して落ち着いて過ごせる空間を大切にした居室作りをしている。			
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を的確に把握し、補助具を使用している。廊下、フロア、トイレ、浴室に手すりを設置し、できる限り自立した生活が送れるよう安全に配慮しながら工夫している。また、職員の付き添いにて立ち上がり訓練等を行い、身体機能の維持に努めている。共有スペースには表示を掲示し、分かりやすくしている。			